DMOって？

観光庁の課長補佐ら招き 観光の現状など学びましたが・・・

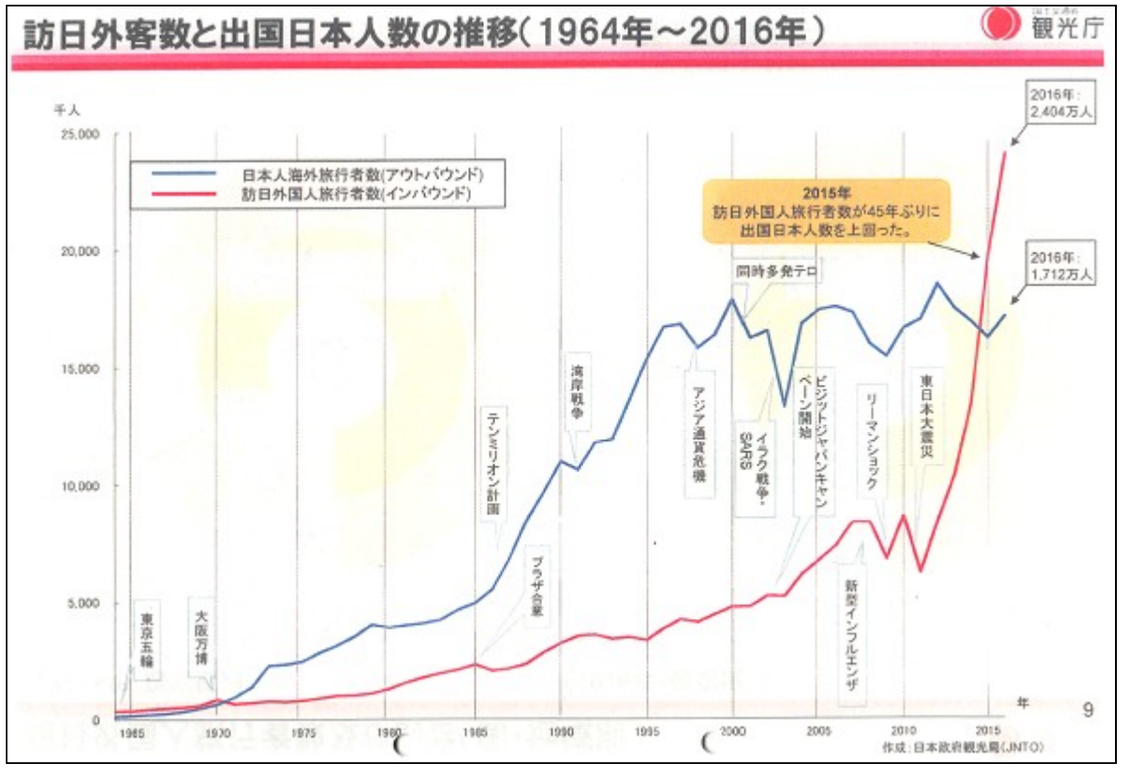
安倍政権は、「人口減少・少子高齢化が進展する中、国内外からの交流人口の拡大や旅行消費によって地域の活力を維持し、社会を発展させる」ことが必要になってきているとして、「急速な成長を遂げるアジアをはじめとする世界の国際観光需要を取り込むことによって、日本の力強い経済を取り戻す」ことを進めようとする「観光立国」構想を打ち出しています。

そして、その核になるモノとして、「DMO」という組織がにわかに注目されてきています。

この「DMO」というのは、「地域の多様な関係者を巻き込みつつ、科学的アプローチを取り入れた観光地域づくりを行う舵取り役」とされています。つまりは観光に特化した専門推進組織ということでしょうか。

上越市議会での毎月定例の議員勉強会では、21日、観光庁の茂原伸幸課長補佐、長田将吾主査を招いて、「観光の現状とDMO」について学びました。

両氏は、ここ数年外国人観光客が急増し、2015年には訪日外国人旅行者数が45年ぶりに出国日本人数を上回ったことを紹介し、外国人観光客による経済効果を説明しました。



その上で、「来訪客に関するデータの収集・分析、効果的なブランディングやプロモーションといった民間的手法の導入が不十分」であるとして、「日本版DMO」を各地域で形成・確立する必要があると強調しました。

しかし、考えなくてはならないのは、まず足下。観光も経済活性化には大切です。しかし、その前に、この国に住む私たち国民の暮らしや雇用を安定させることが、真の経済活性化につながるのではないでしょうか。

在来線の利便性向上めざす

在来線を守る三市連絡会が定期総会

信越線や北陸線、ほくほく線など在来鉄道の維持と存続をめざして運動の先頭に立ってきた「在来線を守る三市連絡会」が、24日、定期総会を行いました。

新幹線の延伸に伴ってJRから切り離された在来線は、この会などの市民運動に支えられて利便性を保ってきました。

しかし、改善しなくてはならない課題はまだたくさんあります。総会ではそうした課題について議論し、今後さらに運動を継続することを確認しました。

在来線に関して、今課題になっていることは、①ほくほく線の車両へのトイレ設置、②糸魚川～新潟間の直通列車廃止への対策、③通学定期値上げへの対策、④新潟などへの割引切符の改善、⑤ダイヤの利便性向上などです。

このうち、ほくほく線トイレに関しては、関係する他の自治体（十日町市、南魚沼市）との連携が必要であることから、それら自治体への働きかけを行おうということになりました。

ダイヤでは、新潟からの上越方面への午後5時以降の電車がなく、新潟で用事を済ませた後の帰りの便に支障があること、特急「しらゆき」の直江津での糸魚川方面への乗り継ぎが不便であることなどが出されました。

割引切符については、「上越～新潟」で、JR時に比べて価格が1・5倍になり、しかも長岡からの新幹線への乗り換えができなくなったこと、週末ツーデーパスは使い勝手が悪いことから、ワンデーパスにしてほしいという声があがっていることなどが出されました。

通学定期問題では、行政への注文が相次ぎました。

日本共産党上越市議員団ニュース

No. 560　2017年8月27日

連絡先
橋爪　法一　090-5392-1961　(吉川区代石)
橋本　正幸　080-1980-9855　(三和区鴨井)
上野　公悦　090-7260-9407　(頸城区中柳町)
平良木哲也　090-1808-6919　(上中田)

増刷できました！

昨年の県知事選挙をまとめた書籍

新潟ショックという言葉を産み出した昨年の県知事選挙をふりかえり、県民の選択の背景と本質を分析したこの本は、発売以来大好評です。

このほど増刷されました。この機会にぜひみなさん、お読みください。

お求めは日本共産党議員までどうぞ。

税込み1,080円のところ、今なら千円ポッキリです。